

意見交換のテーマ「公共施設適正配置における住民との協議の仕方」

今回の論点

○前回の行政改革推進委員会では「公共施設の現状と今後のあり方」をテーマとし、本市の公共施設は、多くの住民の負担に基づいて維持管理等を行うものである一方で、人口減少が進む中において全てを維持していくのは困難であることを説明しました。

このような現状と課題を共有しながら、最適な公共施設であるための意見交換を行いました。

○令和8年度に公共施設等総合管理計画の改訂に向けた住民への説明や協議などを行う予定ですが、その説明や協議の仕方に視点を置き、地域にあるべき公共施設と、その機能とはどういうものにしたらいいのか、住民皆さんと市側と一緒に考えていくための重要な機会であると考えています。

○住民への説明を行うにあたり、単に市の考え方を示すだけの内容であったり、施設の存廃に固執するような議論に終始することも考えられます。

そのような状況にならないためにも、次のような視点や住民への説明の進め方などを検討したいと考えて、課題事項への対応が必要になります。

◆どのように実施していくべきか、どのような方々に参加してもらうのか（周知の方法など）

◆どのような議論、協議にしていくのか（住民に納得感が得られる進め方）

今回は「公共施設適正配置における住民との協議の仕方」をテーマに、本市の公共施設のあるべき姿を住民の皆さんと共に考えていく機会とするため、委員間で意見交換をお願いするものです。

○住民への説明や協議を行うにあたっての課題事項は、次のようなものが考えられます。

〈考えられる課題〉 ①市側の進め方 ②参加者の固定化 ③視野を広げた話し合い ④判断基準の設定

考えられる課題

①市側の進め方について

市の考え方を示すだけの内容であったり、施設の存廃に固執するようなことに終始するのではなく、建設的な議論、協議が行われることが必要になります。

〈課題への対応として〉

市側が議論、協議を一方向的に進めるのではなく、建設的で対話ができる進め方を検討します。

②参加者の固定化について

地域の将来に向けた最適な議論、協議ができるよう、幅広い年齢層に参画していただけるよう住民説明には配慮や工夫が必要となります。

〈課題への対応として〉

幅広い世代、立場（高校生や大学生等の若年層、高齢者、施設を利用している団体、事業者等）の意見を取り入れる仕組みを検討します。

特に、将来を担う若年層の意見は重要と考えます。

③視野を広げた話し合いについて

特定の施設に係わる議論，協議のみならず，地域の将来に向けてあるべき公共施設と，その機能やまちづくりを関連づけていく視点が必要となります。

〈課題への対応として〉

施設単体ではなく，各地域による将来を描いた議論，協議の展開が必要になりますが，人口減少や高齢化，交通手段の確保策等の課題は各地域によって異なるため，地域の特性を見据えた将来に向けた議論，協議が必要です。

④判断基準の設定について

○各地域の施設を統廃合するにあたり，考え方に不公平感が出ないよう共通した項目立てによる判断基準のようなものが必要となります。

〈課題への対応として〉

考えられる基準として，施設の状態などによる「安全性」や施設利用における「公平性」，優先的に残す施設か，また代替等の利用状況などの「必要性」等の基準の設定が考えられます。

話題提供

○上森会長より、他市町で取り組んだ公共施設の適正配置に向けた事例をご紹介します。



上森会長の説明を踏まえ、委員間で意見を出し合い、共有を図ります。



意見交換の視点

◆幅広い年齢層の参画と視野を広げた話し合い

→ 若年層，高齢者，利用団体，事業者，利用していない人等，意見の取り入れ方，周知方法等について，意見交換したいと思います。

有識者の各委員も自分の地域のことと捉え，意見をお願いします。

◆住民に納得感が得られる協議の進め方

→ 安全で公平に利用できる公共施設にするため，協議の仕方，方法，手段等について，また協議で使用する資料や基準（年間の維持管理費等の一覧，安全性や必要性等）について，意見をお願いします。